

6 3 6 1 - 6 9 8  
平成18年7月25日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成18年度病害虫発生予察注意報第4号について

平成18年度病害虫発生予察注意報4号を発表したので送付します。

## 平成18年度病害虫発生予察注意報第4号

平成18年7月25日  
宮 崎 県

病害虫名 トビイロウンカ  
作物名 普通期水稻

1. 発生地域 県内全域  
2. 発生程度 多  
3. 発生状況と発令の根拠

- 1) 7月中旬の巡回調査におけるトビイロウンカの発生面積率14.3% ( 平年値1.9% ) は平年より多、株当たり虫数0.01頭 ( 平年 0.00頭 ) は平年よりやや多～多である。  
2) 予察灯におけるトビイロウンカ誘殺数は平年を大きく上回り、都城、国富、佐土原では過去10年で最も多い。  
3) 向こう3ヶ月の長期予報では、8・9月の気温は平年並か高いと予想されており、本種の増殖に好適な状況は続くと考えられる。( 鹿児島地方气象台 6/22発表 )  
4) 普及センターからの報告では、一部の地域において第1世代幼虫が確認されていることから、飛来後すでに定着・増殖しつつあるほ場があると考えられる。

### トビイロウンカの飛来状況

	都 城			国 富			佐土原 ( 農試 )		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
6月6半旬	0	0.7	0	0	0.1	0	0	0.6	0
7月1半旬	45	1.0	0	10	1.3	0	7	0.9	0
2半旬	23	0.9	5	2	0.7	0	3	0.3	0
3半旬	3	0.8	4	0	2.4	0	0	0.6	2
6/6~7/3半旬計	71	3.4	9	12	4.5	0	10	2.4	2

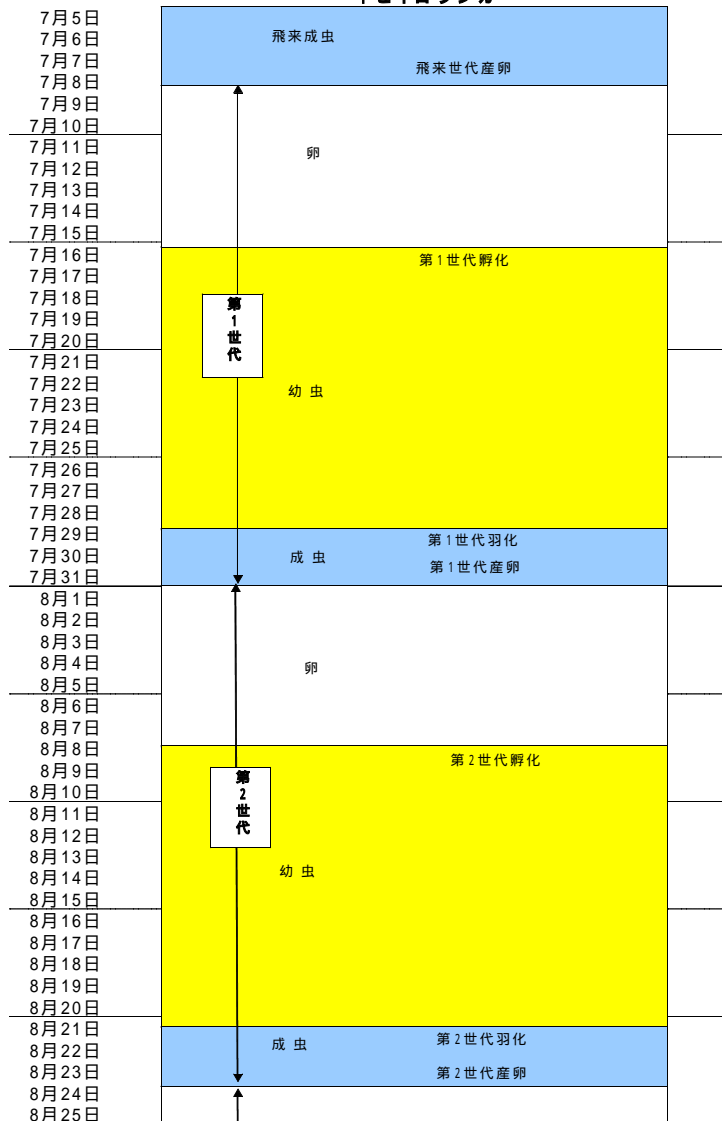
### 4. 防除上の注意

- 1) トビイロウンカは低密度に見えても、増殖率が高く、株元に集中分布して加害し、秋には高密度となって坪枯れを引き起こす。ほ場内の分布は局部的であるので、ほ場全体をみて発生状況の的確な把握につとめ、7月下旬～8月上旬に本種の成幼虫がみられたら防除する。( 要防除水準 1株あたり短翅型雌成虫 0.2頭 )  
2) 防除適期は第2世代幼虫期前半であるので、7月5～6日に飛来したトビイロウンカの第2世代幼虫が孵化を始める8月7～8日頃からと考えられるが、飛来時期にばらつきがあるので、本田の発生状況に注意する。( 図1 参照 )  
3) 液剤や粉剤は本種が生息する株元に十分到達するよう散布する。なお、薬剤によっては効果発現まで期間を要するもの ( 特に粒剤等 ) や残効期間の短いもの等があるの

で、薬剤の特性を確認してから使用する。

- 4) 昨年は、長期残効型箱施薬剤（残効期間約50日間）を使用されている場合でも、薬剤の残効が短かったり、感受性が低下したと考えられる事例がみられたので注意が必要である。
- 5) 防除薬剤等その他の詳細については、宮崎県病害虫防除・肥料検査センター、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。
- 6) ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努める。

図1 有効積算温度による発生経過予測  
トビイロウンカ



7月5日飛来について  
アメダス平年値(都城)  
より算出

連絡先  
宮崎県病害虫防除・肥料検査センター  
櫛間義幸 加藤洋亮  
: 0985 - 73 - 6670  
Fax : 0985 - 73 - 7499  
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp